

# 平成 18 年度教員教育国際協力センター活動報告

## 1. センター教員

センター所長	服部 勝憲 教授
理数科教員養成研究分野	服部 勝憲 教授
IT教育人材養成研究分野	小原 豊 助教授
派遣人材養成・事業評価研究分野	小澤 大成 助教授

## 2. 外国人客員研究員

ケット・パンハック（平成18年6月12日～平成18年7月31日）  
オサキ・カラフンジャ・ムランガ（平成18年10月24日～平成19年2月28日）  
サラニエタ・バカレブ（平成19年1月16日～平成19年2月28日）

## 3. 主要行事日程

平成18年6月1日 教員教育国際協力センター共同研究員受入要項制定  
7月21日 ケット・パンハック外国人客員研究員講演会  
11月11日 国際交流フェスタ ―異文化体験でグローバルな視野を広げよう！―  
11月23日 国際教育協力専門家会議  
途上国の教師教育に有効な授業力向上を企図するプログラム ―その現状と展望―  
12月25～31日  
タイ王国 IT 教員教育ワークショップ  
平成19年1月13日 IT 教育専門家会合  
国際教育協力フォーラム 2007 ―IT 教育で育む確かな学力と優れた授業の姿―  
2月23日 オサキ・カラフンジャ・ムランガ外国人客員研究員講演会  
2月23日 サラニエタ・バカレブ外国人客員研究員講演会

## 4. 主要事業概要

### (1) 国際交流フェスタ―異文化体験でグローバルな視野を広げよう！―

鳴門教育大学教員教育国際協力センターと鳴潮祭実行委員会の共催で、平成18年11月11日(土)に本学にて開催した。

本フェスタの趣旨は、鳴門教育及び徳島大学に在学する留学生や外国人研究者、大学生と地域住民との交流の場の提供であり、大学祭（鳴潮祭）来場者が多く見込まれる2日目を利用した。独立行政法人国際協力機構四国支部長のあいさつ後、鳴門教育及び徳島大学在学の留学生と日本人学生1名の計6名による公開ディベートを実施し、客席を審査者として活発な議論が展開した。終了後は第2部として、楽しく学べるスワヒリ語講座の実施に始まり子どもを対象とした英語を使った遊びやパネルによる世界の遊び紹介のほか模擬店を出店し、留学生の母国料理を披露した。

この事業により、多くの学生や地域住民のほか子ども達に国際交流を体験させることができ、当初の目的を果たすことができた。

### (2) 国際教育協力専門家会議 教師教育に有効な授業力向上を企図するプログラム―その現状と展望―

鳴門教育大学教員教育国際協力センターの主催で、平成18年11月25日(土)に本学にて開催した。

本会議の趣旨は、「初等中等教育の量的拡大とともにその質確保は途上国における教育協力の重要なテーマとなっている。意図されたカリキュラムと現場で実践されるカリキュラム、そして生徒に受容されるカリキュラムには大きな差があり、その差を埋めるための手だてとして、教員養成段階あるいは現職教員研修における授業改善を中心とした効果的なプログラムの実施が重要である。本会議の議論を通じ、途上国の教師教育の現状を理解し、我が国教育改善の重要な柱となっている授業研究の内容や方法が途上国の教員養成あるいは現職教育改善のために、どのように活用できるか、その方途と課題を明らかにする」であった。文部科学省、独立行政法人国際協力機構の来賓、タンザニア、ガーナ、南アフリカ、インドネシア、ザンビアより招待した教育専門家、指定討論者として招待した愛媛大学及び名古屋大学の研究者と本学教員の15名が円卓を囲んで2つのテーマについて英語（通訳なし）で討論した。

午前の部は「教員養成の現状と課題」をテーマとして、タンザニア、ガーナの教育専門家の報告及び鳴門教育大学のカリキュラムに関する事例紹介を行った後、全体討論を実施した。

午後の部は「現職教員研修の現状と課題」をテーマとして南アフリカ、インドネシア及びザンビアの教育専門家の報告及び鳴門教育大学の協力事例の紹介を行った後、全体討論を実施した。

この後、総合討論を実施し、一般参加者約40名を巻き込んだ活発な議論展開を行った。

この事業では、内容の濃い意見を得ることができ、途上国の現状を踏まえ授業研究をいかに展開していくのかについての展望が得られた。

### (3) タイ王国 IT 教員教育ワークショップ

鳴門教育大学教員教育国際協力センターの主催で、平成18年12月25日(月)から27日(水)タイ王国コンケン大学附属中学校、12月29日(金)から31日(日)コンケン大学数学教育研究センターにおいて開催した。附属中学校においては Data Base アクセス、Web Site 開発と情報共有、Web 会議演習を行い、数学教育研究センターにおいては、配信映像加工、無償描画ツール活用、Web 会議演習を行った。

### (4) IT 教育専門家会合

平成18年1月13日(土)、IT 教育人材研究分野におけるセンター共同研究員(全4名)を招聘し、日本における優れた IT 教育実践の姿を確認し、その成立条件と開発途上国への援用の可能性を検討した。山形大学学術情報基盤センター、専修大学ネットワーク情報学部、東京工業大学社会理工学研究科の各共同研究員から実践的取組みが報告され、徳島県立総合教育センター情報教育課所属共同研究員を交えて、開発途上国のための IT 教育協力の手引き作成に向けて議論を進めた。同時に、センター共同研究員制度を軸とする IT 教育協力体制を確認し、途上国 IT 協力支援の在り方について共通理解を得た。

### (5) 国際教育協力フォーラム 2007 - IT 教育で育む確かな学力と優れた授業の姿-

鳴門教育大学教員教育国際協力センターの主催で、平成19年1月13日(土)本学にて開催した。

本会議の主旨は以下であった。IT 活用は、世界の初等中等教育の在り方に大きな変化をもたらしている。本フォーラムでは、世界情報社会サミット (WSIS) で指摘された情報化社会の課題に応じて、確かな学力を育む IT 教員研修の姿を優れた実践例を軸に探るほかフィリピン共和国、フィジー共和国、サモア国及び大韓民国での IT 活用に関する実践報告や IT 教育協力のための課題を共有し、国際的な連携を図ることを目指す。

文部科学省、国際協力機構、釜山教育大学校長による来賓挨拶のあと、徳島県教育委員会より「徳島県の IT 教育」と題した基調講演、そしてフィリピン共和国、フィジー共和国、サモア国、大韓民国、パプア・ニューギニアでの IT 活用に関して実践報告の後、活発な全体討論が行われた。またフォーラム開催にあわせ、13日午前中には IT 教育協力量ラウンドテーブル、14日には途上国における ICT 授業実践報告が行われ、IT 教育協力に関する知見が蓄積された。

### (6) ケット・パンハック氏講演会

平成18年7月21日に開催された。講演は「ラオスの教育課題と将来への展望」と題し、ラオスにおける教育の現状と将来展望およびその課題が述べられ、またラオスにおける様々な国際教育協力事例が紹介された。

### (7) オサキ・カラフンジャ・ムランガ氏講演会

平成19年2月23日に開催された。講演は「アフリカの環境教育」と題し、タンザニアを含めたアフリカの環境の実態と、執筆している環境教育の教科書の紹介、そして子供に対して環境に対する意識を向上させる教材の紹介が行われた。

### (8) サラニエタ・バカレブ氏講演会

平成19年2月23日に開催された。講演は「フィジーにおける数学教育と ICT 教育の統合」と題し、フィジーにおける ICT 教育の受容と課題、南太平洋大学における ICT 教育のカリキュラムの現状と、今後の提言であった。

## 5. 所属教員の海外調査および協力活動

平成18年4月15日～4月23日	南アフリカ共和国ムプマランガ州事業評価調査 (小澤大成助教授)
平成18年9月4日～9月16日	南アフリカ共和国ムプマランガ州事業評価調査 (小澤大成助教授)
平成18年9月22日～10月27日	アフガニスタン短期専門家派遣 (小澤大成助教授)
平成18年12月25日～12月31日	タイ王国 IT 教員ワークショップ (小原 豊助教授)
平成19年3月2日～3月11日	ウガンダ国調査 (小澤大成助教授)
平成19年3月8日～3月23日	サモア・フィジー短期専門家派遣 (服部勝憲教授)
平成19年3月8日～3月23日	サモア・フィジー国調査 (小原 豊助教授)